

採択校アンケート集計

① 主なテーマ別

項目	内容	大学名
財源確保・自走化モデル(補助金後の設計)	安定財源、外部資金(企業・団体・寄付)、奨学金減額への対応、学生自己負担・有料化、移行期間(段階的縮小)など	岐阜大学、名古屋大学、東京都市大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、新潟大学、千葉大学、東京藝術大学、関西国際大学
人材・運営体制(配置継続／業務移管／継承)	特任・補助金スタッフ終了後の体制、専任教員への負荷、ノウハウ蓄積・継承	東京都市大学、お茶の水女子大学、関西国際大学
受入・派遣の運用設計(実務ルール／コスト構造)	1人当たり支援項目(渡航・宿泊・交通等)、宿泊(寮／ホテル)、受入人数、実施時期・回数、募集・広報の工夫	長岡技術科学大学、千葉大学
学生支援・参加者確保(費用高騰／支援縮小への耐性)	円安・物価高の影響、支援が減っても応募を維持する仕組み、受入側補助不足と負担軽減(参加費徴収の可否含む)	東京都市大学、長岡技術科学大学、関西国際大学
質保証・評価・成果測定(量→質、外的要因含む)	プログラムの質担保、成果測定の難しさ(渡航制限等)、量偏重から質評価への転換、制度要件の柔軟化ニーズ	神戸大学、東京都市大学
成果測定・規模調整／質保証	渡航制限等の影響下での成果測定、質を維持しつつ規模を調整して継続する方針設計、量偏重から質重視への評価転換など	神戸大学、東京都市大学
連携大学との関係維持	補助事業終了後も海外連携大学との関係性を継続的に維持し、協働を続ける運営設計	東洋大学

② 各テーマの概要(傾向まとめ)

項目	内容	大学名
財源確保が最頻出	補助金終了後の「何で回すか」が最大関心。寄付・企業連携、奨学金、参加費導入など複線化志向。	岐阜大学、名古屋大学、東京都市大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、新潟大学、千葉大学、東京藝術大学、関西国際大学
体制面の不安が強い	人件費・人材不足に直結。特任依存からの移行と、業務の棚卸し／継承が共通課題。	東京都市大学、お茶の水女子大学、関西国際大学

運用は「標準解」を求める声	支援項目・宿泊・回数など、他大学の相場感・実務モデル共有のニーズが高い。	長岡技術科学大学、千葉大学
費用高騰が参加に直撃	円安・物価高、奨学金減額で、参加者確保・継続性に不確実性。	東京都市大学、長岡技術科学大学、関西国際大学
評価は「量から質へ」	小規模でも価値を示せる指標、遅れて顕在化する教育成果の扱いが論点化。	神戸大学、東京都市大学
成果測定と質保証の両立が論点	渡航制限等の影響で成果測定が難しい中、規模調整や評価指標の見直しを含めて継続方法を探る必要がある。	神戸大学、東京都市大学
連携継続の仕組みも課題	財源や体制だけでなく、相手大学との関係維持や協働継続の設計も重要論点。	東洋大学

③ 共通して多い課題

項目	内容	大学名
安定財源の確保(補助金後)	補助金終了後の継続財源、寄付、自己負担、外部奨学金、学内配分の組合せが課題。	岐阜大学、名古屋大学、東京都市大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、新潟大学、千葉大学、東京藝術大学、関西国際大学
人員確保と業務移管	補助金活用スタッフの継続配置、専任化、ノウハウ継承が課題。	東京都市大学、お茶の水女子大学、関西国際大学
参加者確保	支援縮小・費用高騰下でも応募を維持し、派遣・受入の双方を継続する工夫が必要。	長岡技術科学大学、東京都市大学、関西国際大学
受入側の負担	受入補助不足、運用コスト、参加費徴収の可否が論点。	長岡技術科学大学、千葉大学、関西国際大学
「質」の示し方	成果測定の難しさや、量偏重を避けた評価指標の整理が必要。	神戸大学、東京都市大学
成果測定・質保証	成果測定の難しさへの対応、質を維持した規模調整、評価指標の見直しが課題。	神戸大学、東京都市大学
連携先との関係維持	補助事業後も連携大学との関係を継続し、協働を絶やさない仕組みづくりが必要。	東洋大学

④ 大学間で共有すべき論点(全体討議の核)

項目	内容	大学名
自走化の財源モデル	どの組み合わせが現実的か(寄付/企業連携/学内配分/参加費/奨学金/基金)/「最低維持ライン(規模・質)」をどう定義するか	岐阜大学、名古屋大学、東京都市大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、新潟大学、千葉大学、東京藝術大学、関西国際大学
参加費(有料化)設計	徴収範囲・金額感・減免・導入プロセス(学内規程/説明/段階導入)	千葉大学、関西国際大学、岐阜大学
体制の持続性	業務の必須/簡素化/外部化の切り分け、継承の仕組み(マニュアル化等)	東京都市大学、お茶の水女子大学、関西国際大学
運用の標準化	支援項目の「標準セット」、宿泊、受入人数、年次設計(回数・時期)	長岡技術科学大学、千葉大学
評価・質保証	量偏重を避けた質 KPI、外的要因(渡航制限等)時の成果の捉え方	神戸大学、東京都市大学
成果の見せ方と継続判断	成果測定が難しい状況で何をもって継続判断するか/質担保と規模調整をどう両立するか	神戸大学、東京都市大学
連携大学との関係維持策	事業終了後も連携大学との関係性を維持するための役割分担、接点、交流の持ち方	東洋大学

⑤ 今後の検討アジェンダ案

項目	内容	大学名
自走化の財源類型案の整理	例：寄付型／参加費型／学内基盤＋奨学金型を整理し、各校の当てはめを共有する。	岐阜大学、名古屋大学、東京都市大学、お茶の水女子大学、横浜国立大学、新潟大学、千葉大学、東京藝術大学、関西国際大学
参加費(有料化)の制度面チェックリスト作成	徴収対象、減免、説明、段階導入を整理する。	千葉大学、関西国際大学、岐阜大学
運用標準テンプレ作成	1人当たり支援項目、宿泊方針、受入人数、回数・時期、募集導線をテンプレート化する。	長岡技術科学大学、千葉大学
体制移行計画の共有	特任業務の棚卸し、専任負荷軽減、継承方法を各校で共有する。	東京都市大学、お茶の水女子大学、関西国際大学
参加者確保策の事例交換	支援縮小下の魅力設計、広報、学内連携、奨学金組合せを交換する。	長岡技術科学大学、千葉大学、関西国際大学、東京都市大学
質 KPI 候補のたたき台作成	学修成果・地域連携・キャリア等の指標と、外的要因時の代替評価案を整理する。	神戸大学、東京都市大学
次回までの宿題設定	好事例(寄付獲得、参加費導入、運用標準、体制移行)を各校1件ずつ提出する。	全体
成果測定・質保証の整理メモ作成	成果指標、規模調整時の判断軸、量と質の評価バランスを整理する。	神戸大学、東京都市大学
連携大学との関係維持の実践例共有	補助終了後も連携大学との協働を続ける方法や接点維持策を共有する。	東洋大学

採択校アンケート集計（他大学への質問）

質問	大学名
事業終了後もプログラムを継続・発展させるため、どのように財源を確保し、自己負担額・有料化・外部資金獲得を設計していくか。	名古屋大学、千葉大学、関西国際大学
自走化後、受入・派遣それぞれの学生に対し、大学としてどの程度の経済的支援を行うか。航空券代、宿泊費、鉄道運賃等の支援項目をどう設定するか。	長岡技術科学大学
短期留学生受入の運営設計について、宿泊先(寮・ホテル等)、一度に受け入れ可能な人数、受入時期、年間の実施回数をどのように設定しているか。	長岡技術科学大学
受入・派遣の双方で応募学生数を増やすため、大学としてどのような募集・広報・参加促進の取組を行っているか。	長岡技術科学大学
展開力事業におけるアルムナイ運営の在り方や、プログラムへの寄附の仕組みをどのように設計しているか。	横浜国立大学
事業継続に必要な人員体制をどのように確保し、補助金活用スタッフ終了後もノウハウを組織内に蓄積・継承していくか。	関西国際大学
財源や学修効果の観点から、オンラインと実渡航のベストミックスをどのように考えるか。	関西国際大学